

阿達くんの日記 6月号



6月になりました。魚沼の田植えもほぼ終わりになろうとしております。農家の皆様ご苦労様でした。同時にありがとうございます。これから夏の暑さや雨風に負けない丈夫な稲へ育ててほしいと思います。

お米の勉強・豆知識

*箸の始まり・・・奈良時代に小野妹子は遣隋使として隋の国へ渡り、箸で食べている様子を見て日本に持ち帰ったといわれております。なので初めて箸を使ったのは小野妹子といわれております。箸を日本に広めたのは聖徳太子といわれております。

お米の成長・・・

*春先に「代かき作業」という田んぼを込ねる作業があります。お米のベット作りです。

*「田植え作業」はだいたい3本位の苗を指の第二関節あたりまで植え優しく土を戻します。苗は3本から6本から12本と分けつします。植える株が多すぎると混み合い良いお米が実りません。(学校のクラスみたいですよ)。その後、田んぼに水を張り、苗は水に浸かった状態になります。これは温度をある程度一定に保ち、根を張らせませす。

7月中旬くらいから「中干しという作業」をします。田んぼの水を抜き乾かしていきます。これは、分けつを抑えるのと、根が力強くなるのと、稲刈りの準備をするなどの目的があります。7月中旬の午前中は稲の花を見ることができます。小さな白い花です。

そして9月、稲が黄金に輝き、頭を垂れる頃いよいよ「稲刈り作業」です。お米は成長に八十八日、手間も八十八かかるといわれております。それで、「米」という字になるらしいです。(※説明が違っていたらごめんなさい)

